

ある。

昭和34年5月26日に、伊方町松田亀久雄氏から三好英一郎氏が昨年末土佐の沖ノ島で採集したという頭大の石に附着している径45cmの石珊瑚の一種と海藻の一種の鑑定を求められたのでしらべてみたところスリパチサンゴとクロキツタであることがわかった。三好氏の談によると毎日暮方になると、海底に電燈をともしたように光る物体があるので、潜水して5~6尋の海底から引きあげて見たのであるということである。これがスリパチサンゴであり、それにクロキツタが附着していたというわけである。クロキツタ分布上貴重な一資料が得られたものである。四国南西部諸島海域にクロキツタ自生地の予見があつたのであるが、今回の発見によつてそれが実証されたわけである。

沖ノ島は四国の南西端柏島から8キロの海上にあり、周囲23キロ黒潮の激衝して来るところで水温気温共に高く、亜熱帯性生物多く土佐珊瑚の産地として知られたところである。

(昭和34年6月6日愛媛県西宇和郡伊方町湊浦 野村義弘)

## カリフォルニア大学に学びて

田 中 剛

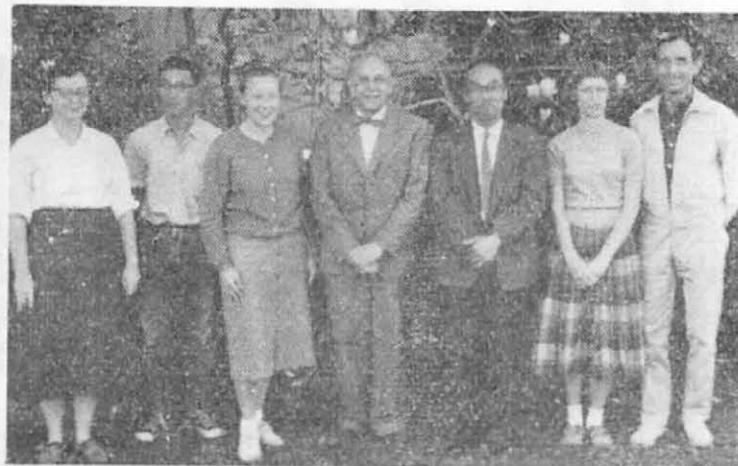
筆者は昨年度、ロックフェラー財団の Travel Grant の交附を受け、アメリカ、パークレイ市のカリフォルニア大学に学ぶ機会を得、更に旧臘、カナダ、アラスカ等の太平洋沿岸の藻類関係の研究室及び水産研究所を訪問する事が出来た。先ず昨年9月20日に羽田を發つて、ハワイ、ホノルルに一泊後、パークレイ市のカリフォルニア大学の PAPENFUSS 教授の植物学教室に直行した。同教室では、直ちに9月22日付をもつて同大学の Research Associate の辞令を交附してくれ、研究員として、日本南海産の藻類について研究に従事し、約6カ月間滞在して、予期以上の成果を挙げる事が出来た。同藻類研究室は既に広く世界に知られている如く、故 SETCHELL, GARDNER 博士を初めとして数多くの藻類学者が輩出し、現在では PAPENFUSS 教授が中心となつて居り、外国からの留学者も多数見えている。

この大学には以前、山田、瀬木、時田博士等の我国の藻類学者も留学又は訪問されて居り、藻類関係の文献及び標本の完備している事は全く驚くば

かりで、羨しき限りであるが、岡村、遠藤、山田博士等の我国の海藻標本も多数所蔵されている。



加州大学ライフ・サイエンス  
ホール



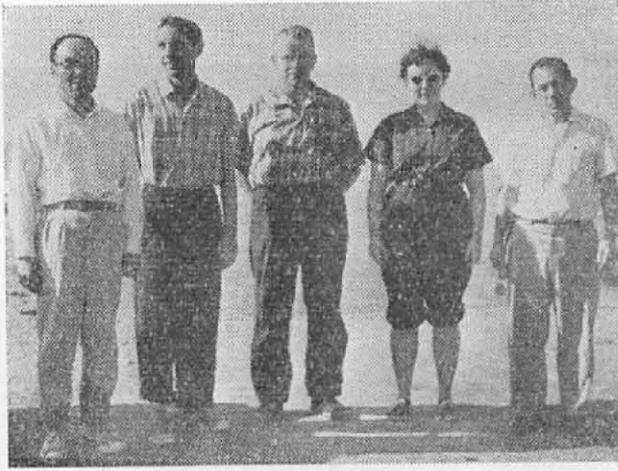
加州大学、藻類研究室員  
右より SILVA 博士, STEIN 博士, 筆者, PAPENFUSS  
教授, WATERS 嬢, FAN 氏, HORNER 嬢

当時、筆者の外に、イリノイ大学の SILVA 博士が数カ月間留学して、ミル属の研究に没頭していた。

次に同藻類教室の現在の Stuff 及びその研究テーマを紹介して見ると、先ず PAPENFUSS 教授は、目下アフリカ産藻類、アオサ目の研究に専念し、STEIN 博士は講師として授業を持ちながら、藻類の培養、特に Volvocales の生活史、生理、細胞等について研究中である。HORNER 嬢は昨年ミネソタ大学の NORRIS 教授の下を卒業して、目下腊葉室勤務として、標本の整備の傍ら、アメリカ太平洋岸のトサカモドキ属の研究を行つている。WATERS 嬢は Undergraduate の学生として、STEIN 博士と共に淡水藻特に *Eudorina* の形態及び生理について研究中、中国の FAN 氏は大学院学生として勉学の傍ら、テングサ目及び寄生紅藻類の研究に没頭中である。

尚筆者はカリフォルニア大学に滞在中、サンフランシスコ郊外の Moss Beach 海岸に数次、SILVA 博士、GILBERT 博士等と海藻採集に参り、多数の海藻を採集する機会を得た。就中 *Macrocystis*, *Nereocystis*, *Postelsia* 等の長大な、日本には見られない褐藻類を採集して、日本に持帰る事が出来た。

更に昨年末には、太平洋沿岸の藻類関係の大学研究室及び水産研究所を訪問し、多くの藻類学者に面接し、その研究施設を見学する事が出来た。その主なものを挙げると La Jolla, Scripps Institution of Oceanography の



サンフランシスコ郊外 Moss Beach にて  
右より平野氏 (植物教室勤務), HORNER 嬢,  
GILBERT 博士, SILVA 博士, 筆者



ハワイ大学, Dean Hall 植物  
学教室前の DOTY 教授夫妻

HAXO 博士のチノリモの培養装置, Pacific Grove の Hopkins Marine Station の BLINKS 博士の海産バクテリア及び海藻の培養室, ワシントン大学, 水産学教室の PALUMBO 博士の海藻と放射能との影響に関する研究設備, アラスカ, 首都ジュノー市の Fish and Wildlife Service の GIBOR 博士の藻類の培養室等であり, いずれもその施設の規模と装置の完備しているのに驚いた次第である。

アメリカ留学を終えて, 本年4月帰途ハワイ大学に立寄り, 約15日間滞在して, 同大学の Doty 教授の助力により, オアフ島周辺の海藻採集を試み, たまたまミシガン州の Albion 大学から研究に来島して居た GILBERT 博士と一緒に, 連日楽しく採集する事が出来て, 短期間の滞在だったが相当の成果を挙げる事が出来た。ハワイ諸島産のイバラノリ属, ガラガラ属, アマノリ属等について, Doty 教授の資料を基にして後程発表の予定で居る。